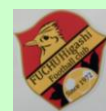


平成29年2月9日

風は東から



To be continued...

鍛錬期に自分自身に向かい合う!!
シーズンに向けて今が正念場!!

厳しい冬の「鍛錬期」もいよいよ折り返し!!

二月は恒例の「東高 Winter Soccer Carnival」で揉まれ遅くなる !!

早いもので、カレンダーも二月に変わり、冬の鍛錬期も折り返し地点を通過しました。今年は、三十数年ぶりの寒波の影響で東京にも鍛錬期に相応しい寒さが到来し、白い息を吐きながら子どもたちはTRを行っています。スタッフ陣は、一様に日が沈むと首から上の部分は凍ってしまいそうです。珍しくグラウンドに残っている日陰の雪は未だ消えません…。

毎年、東高サッカー部の三学期のTRでは、身体つくりのためフィジカルTRのメニュー量が増え、並行して体育の授業が持久走となり(今年は雪の影響であまり走れてはいませんが…)、一年のうちで最も負荷のかかる厳しいまさに「鍛錬」の時期となります。しかし、ここをやり切れるかどうか勝負の分かれ道となることは、子どもたちも十分に理解しています。そして、古今東西の強豪校といわれるチームは、この冬の鍛錬期に厳しいTRでしっかり追い込んでいます。つまり、この時期に追い込めないチームは先が見えてしまいます。東高サッカー部も、強豪校に負けじと冬の厳しいTRで心も身体も鍛え遅くなり、春までにもうひと回りもふた回りも成長できるよう全力で取り組んでいきたいと思えます。

さて、二月の毎週末(土・日)と祝日には、冬の恒例行事となった「東京-神奈川対抗戦」が開催され、フェスティバル形式で一日各チーム二ゲームは確保しています。また、火曜日には全面グラウンドが使用できるので、積極的にTRMを組み、実践を通して全体のサッカーの経験値を上げています。実戦での課題を日頃のTRにどのように落とし込んでいくのか?この意識の差が、春の新シーズンを迎えた時に大きな差となって表れます。子どもたちには、常に創意工夫する姿勢を身に付けて欲しいものです。



<ゲームではグラウンドの至る所で闘いが強られる!! 強い気持ちと負けない身体が要求される!!>

2017 地区トップリーグ(24チーム)最終成績 準優勝で来年度「T4昇格!!」

1月15日(日)、地区トップリーグ最終戦が行われ今年度の全日程が終了しました。**84号**にも掲載したように、今年度地区トップリーグに於いて、東高はグループリーグを七戦全勝で首位通過、順位決定リーグ(1位~4位)では**1勝2分け**と負けなしでしたが、残念ながら最終成績は**準優勝(24チーム中)**で、来年度の「**T4昇格**」を決めました。

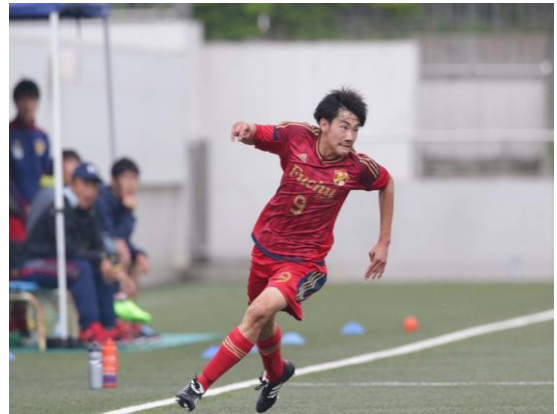
また、個人タイトルでは、**得点王に18得点の鈴木涼雅**、**アシスト王に9アシストの佐藤葵士**が二年連続で受賞しました。これで、昨年度に続き府中東勢が個人賞を独占しました。その他では、**林田諒太が10得点(4位)&7アシスト(3位)**に入るなど、今年度の東高の爆発的な攻撃力(10試合で**51得点**)を良く象徴した個人賞の結果でした。

念願の**Tリーグ昇格**を果たし、いよいよ東高サッカー部が来年度デビューします。地区トップリーグからTリーグへの昇格は困難の連続でまさに“**いばらの道**”でありましたが、降格はあっという間です。来年度のTリーグの目標「**T3昇格**」を目指し、新チームも日々精進していきます。

新「F-Higashi Style」のTリーグでの活躍をご期待ください!!



<得点王 18得点 鈴木涼雅>



<アシスト王 9アシスト 佐藤葵士>

推薦入試合格発表!! 四名のスポーツ推薦者が決定し、早くも合流!!

2月1日(木)、都立高校推薦入試合格発表がありました。今年度は、私立高校の無償化や新校舎移転の影響もあってなのか、昨年より倍率は下がり(多くの都立高校に言えます)、文化・スポーツ推薦のサッカー志願者も**13名(3.25倍)**と例年よりやや広き門となりました。今年の合格者は、四名であり、早速、手続き終了後に挨拶に来て、週末からTR&TRMに参加しています。東高サッカー部では、合格者には、積極的にTRに参加できる体制を整えています。一日も早く、高校サッカーそして東高サッカーに慣れ、新たな戦力として期待しています。

地区選抜大会に東高から西谷、川合の二名が選出 !!

二月上旬に「**U16 東京都地区選抜研修大会**」が、駒沢公園にて三日間行われています。各地区で一年生の選抜チームを作り、ゲームを行い順位を決め優秀選手を選考します。今年も、新人戦の結果が評価され、**西谷、川合(幸田が怪我のため離脱)**の**二名**が選出され、いつもとは全く違う環境の中で、ここまで積み上げてきたものを如何なく発揮し、チームの勝利に貢献して欲しいものです。

